

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100364		
法人名	社会福祉法人 宇水会		
事業所名	グループホームメルヘン (2号館)		
所在地	大分県宇佐市大字蜷木1769-1		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動として清掃活動や交通安全活動を事業計画に盛り込み実施している。又、地域の方々に認知症の理解を深めて頂けるよう勉強会も実施している。 ・運営推進会議や防災訓練等にも地域住民の協力が得られ、意見を反映しながら質の向上に努めている。 ・同敷地内に理事長(医師)宅があり、夜間や緊急時などすぐに対応することができる。 ・グループに多種のサービス事業所があり、体調の変化や身体機能の変化に合わせ、ご利用者やご家族の要望に添ってサービス提供が行える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加や、日常的な地域との交流が、利用者の楽しみ事や生きがい支援に繋がっている。 ・職員の向上心と事業所の積極的な資格取得支援が、職員のスキルアップや事業所の質の向上に繋がっている。 ・季節ごとの花見や、果実狩りなどの集団での外出支援が行われており、利用者全員が参加している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を名札の裏に入れて携帯しミーティングでも定期的に唱和し、理念の浸透を図り、実践を心がけている。	理念は、事業所で実践されている地域との共存やその人らしさを大切にした支援に反映され、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の運動会や祭り、敬老会に参加している。また、事業所の夏祭りに地域の方々や子供会を招待し交流を図っている。ご利用者の知人、友人の面会が日常的にある。	運営推進会議の委員や以前入居していた利用者家族、地域住民との交流があり、利用者の外出、娯楽、馴染みの関係づくりに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解を深めていただけるように地域老人クラブ等で勉強会を開催している。又、ボランティアや実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や研修会・運営に関する報告を行うと共に、意見交換の中でのご要望やご意見を反映し、よりよいサービスの提供に努めている。	運営推進会議には、多職種の委員が参加している。利用者家族全員に案内を送付している為、毎回多くの家族が出席している。議事録もわかりやすく記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	母体施設が地域包括支援センターを市の委託を受けているので、職員との情報交換や連携を常に図っている。又、市担当者が出席する地域ケア会議や運営推進会議等など必要に応じて情報交換を行っている。	運営推進会議には、市の職員、母体の包括支援センター職員が参加し、宇佐市の福祉・介護についての情報提供が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束について研修などを通して理解を深めるようにしている。就寝時には安全確保の為に了承を得て鈴や衝撃を緩和するマットを設置し、ご本人の意思を尊重した対応を行っている。	2階の居室には、出入りを知らせる心地良い音色のセンサーが取り付けられているが、職員は、チャイムやセンサーに頼ることなく、利用者の行動を把握共有し、利用者が自由に行動できるよう支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングなどを通して、理解が深められるように取り組んでいる。		

事業者名:グループホームメルヘン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や認知症勉強会に取り入れ、理解を深めるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含め事業所の対応可能な範囲について説明を行い、サービスの継続が困難な場合は事前にその後の対応方針も含めて納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	嗜好調査やCS調査を実施し要望や意見を表わせる機会を設けている。面会や運営推進会議の際に話しやすい雰囲気作り心がけ、出された意見や要望は前向きに受け止め、反映させている。	利用者意見は、食事を中心に職員が希望などを聞き取っている。家族からは、アンケートを取ったり、運営推進会議や面会時に意見や要望を聞き、事業所運営に活かすように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課やアンケート調査を実施すると共に、ミーティングや会議・面接など、職員からの意見や提案を聞く機会を持ち、良い提案は実行している。	毎日、昼の時間帯に事業所の共有空間で、ミーティングを開き、意見交換が行われている。困難事例では、全職員に具体的に議題を提案してアンケートを取り、出された意見を、ケアプランや利用者支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慰労を兼ねた食事会や表彰制度を取り入れたり、職員の誕生日には職員会議で紹介やプレゼントを企画するなど、職員が向上心を持って働けるような職場環境づくりへの配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	階層別研修会の実施や外部研修へ参加し、スキルアップに努めている。又、法人内で資格取得に向けての勉強会を開催するなどの取り組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の社会福祉法人のグループホーム間での情報交換や課題別の取り組み、又、他施設の見学・交換研修などを実施することで、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた場合や、施設見学時など、担当ケアマネージャーと、ご本人・ご家族と面談して、様々な問題に対応できるように提案などを行い、納得された上で安心して入居していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状を伺い、担当ケアマネージャーの情報も含め、相談や助言をさせていただき、又、入所前に空床ベッドを利用してのショートステイ利用を試みるなど安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他のサービス紹介等を含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下ごしらえや片付け等、ご利用者が職員の手助けをしたい気持ちを大事にし、日常的に手伝って頂いている。作業リハビリ等で得意な事を披露する機会も提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで、ご利用者の様子を伝え、状態を把握していただくようにしている。また、夏祭りや忘年会と一緒に参加して頂き、ご利用者を中心にお互いの交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添って、ふる里訪問やショッピングなどを実施し、住み慣れた場所や知人との関係が継続できるよう支援している。隣接するデイサービスを利用する友人との交流が図れるように配慮している。	5人の利用者が故郷訪問に出掛けている。「本人の思いを大切に」交流や関係継続に努めている。入居後に支え合う関係が築かれた利用者同士が共有空間で語らう場づくりも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う方同士で過ごせる場面作り(テーブルの位置や外出時の配車・職員の仲介)をするなどを配慮して利用者同士の関わりが持てるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方にも、ご利用者と一緒に面会に行くなど、継続的な付き合いが出来るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アンケートの調査や希望に添ってショッピングやふる里訪問などを実施している。ご利用者とのコミュニケーションを常に意識し、その時の言葉や表情などから、個々の思いを汲み取れるように努めている。	利用者や家族との会話やコミュニケーションで得られた情報を基に、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、担当ケアマネジャーより、情報を収集している。又、入居後も折に触れ、ご本人やご家族に聴き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の生活リズムを理解すると共に、その日その時の体調や気分にも配慮しながら、特技や趣味を発揮できる場面などを提供して個々の状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃からの関わりの中で、思いや意見を聴き反映させるようにしている。職員全員でカンファレンスに参加し、ケアプランを作成している。	利用者の個性や特技を活かし、身体面のハンディを負担させない個別対応の介護計画を作成し、困難事例や状況の変化時は、全職員の意見や提案を聞き、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記載し、気づいたことは申し送りや気づきノートを活用し、職員間で情報が共有できるようにしプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の変化や異常発生時は、主治医・看護師に常に相談できる体制を確保している。又、必要に応じて、ご家族やご本人が希望する医療機関へ受診が出来るよう支援を行っている。		

事業者名:グループホームメルヘン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・地域の代表の方々と情報交換を行っている。又、地域主体の防災組織があり、住民の協力も得られている。ボランティアの受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族又はご本人が希望する医療機関へ受診できるように支援を行っている。受診時間や必要時の往診などで、対応可能な協力医を確保している。	2週間に1度、母体法人の訪問診療を受けるとともに必要に応じての受診支援を行っている。また、年に2回、母体の精神科専門医外来の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な受診でご利用者の状況を把握している看護師に、健康状態に問題が生じた場合相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いや連絡等により、状態の把握に努め、又、医療機関の情報により、退院後の経過がADL的にグループホームでの対応が困難な場合、関連施設との話し合いにより受け入れ先が確保できる体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や、ADL的に入所の継続が困難な状況が発生した場合の方針について説明し納得をいただいている。入所継続困難が予測される場合、できるだけ早い段階でご本人及びご家族と話し合い方針を決定している。	利用者の心身の状況やADLについて総合的に話し合い、共同生活が困難な状況になった場合は、法人内の医療機関や福祉施設への住み替えを基本方針としている。利用開始時より、家族と話し合い、利用者のリロケーションダメージにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網・マニュアルを把握しており、救急法の研修会への参加や、勉強会を実施し体得・習得するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時は地域の方にも緊急連絡網で協力を得られるようにしており、定期的な訓練や研修を実施している。	法人全体で、災害時の業務基準や様々なマニュアルが作成されており、年に2回の避難訓練が実施されている。運営推進会議に地域の消防団や消防署の参加もあり、災害時の協力関係も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者個々に合わせ、さりげない言葉かけや対応を心がけ、職員がお互いに注意し合うようにしている。プライバシー保護についての勉強会を行い、理解が深められるように取り組んでいる。	利用者の個性を重んじ、居室訪問や片づけの際にも、プライドを傷つけない声掛けや対応の配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の参加や食事内容、買い物など、日常生活全般において、ご利用者個々の意思表示を大切にケアを心がけている。意思表示が困難な方についても、本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調や、その日その時の本人の気持ちを尊重し、食事時間や入浴日の変更、個別の散歩など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など着ていく洋服を一緒に選んだり、お化粧品などおしゃれを楽しめるよう支援している。又、本人の希望を聴き、出張美容の依頼や、昔からの行きつけの美容院へ、同行介助も対応できる体制が整っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を取り入れながら献立表を作成し、調理、盛りつけ、片付けなどをご利用者と一緒に行い、職員とご利用者が同じテーブルで、和やかに食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	法人栄養士が、1ヶ月ごとに献立を作成し、毎食、事業所の台所で手作りの食事が作られている。食事を喜びや楽しみとして、美味しく味わう事が出来るよう、年に2回の嗜好調査が行われ、献立づくりに活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録すると共に、摂取量が少ない場合は職員間で申し送り把握している。 献立を管理栄養士にチェックしてもらい、専門的アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修会を実施し、口腔ケアの必要性を認識し、毎食後に歯磨きやうがいの声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。週1回は義歯洗浄剤で消毒を行い、口腔内の清潔が保てるように支援している。		

事業者名:グループホームメルヘン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、訴えがないご利用者にも時間を見計らって声かけ誘導を行い、又、行動を察知し誘導することで、トイレで排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを理解した支援を行っている。事業所の利用開始から、誘導でトイレでの排泄が出来るようになり、「起こせば出来る」という家族の気づきに繋がった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維を摂れる工夫や、朝食後のトイレ誘導、散歩、体操、腹部マッサージなど、自然排便ができるように心がけている。排便チェックし、排便ない場合は下剤服用で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を原則とし、本人の体調や気分により、時間や入浴日を変更するなど、柔軟な対応を心がけている。	全員が浴槽を利用でき、個別での入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者には、自宅での入浴や温泉施設での入浴を家族の協力を得て行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを考えた支援を行い、散歩やレクリエーション等の余暇活動を通し、体を動かす機会を提供することで安眠策を取っている。又、外出後など居室や和室等で休息できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者を決めて確実に与薬し、内服の変更があった場合は、ミーティング時に看護師が報告し周知徹底を図っている。症状の改善や悪化など変化が見られた時は、介護職、看護師が連携を図り、Drに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握し、特技や趣味を発揮できる場面の提供等、その人らしさを大切にケアを心がけ自立支援に繋げている。調理、茶碗拭き、洗濯たたみ、花などを育て、生き生きとした生活が送れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、日常的に散歩・ふる里訪問・ショッピング・ドライブなどに出かけている。又、お花見や紅葉見物など季節毎に外出の機会を持ち、季節感や外食などを楽しんでいただくよう支援している。	利用者の希望に応じた個別外出や複数の利用者での外出支援が行われており、季節ごとの集団外出は、事業所車両を活用して、全利用者参加で出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の能力に応じ、ショッピング時など職員が付き添いで支払いの見守り介助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望のある場合、又、プレゼントが届いた場合などは職員が声かけを行い、家族への電話の介助や、個々の能力に応じて職員が内容の確認や、用件などの伝達を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節毎の花を植え、館内にはご利用者の作品などを飾り、音楽を流したりくつろげる雰囲気づくりをしている。又、天窓やレースのカーテン、よしずを使用し、柔らかな日射しの調整を心がけている。	利用者の集う場は、利用者が思いおもいに過ごせるよう、食卓や複数のソファ、椅子が置かれている。ソファで一人うたた寝をしたり、気の合う仲間と会話を楽しむなど、穏やかに過ごす事の出来る共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファやイスを置き、又、和室など好みの場所で過ごせるようにしている。面会時は本人の居室で過ごしたり、和室や食堂で家族水入らずの時間が持てるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや椅子など馴染みの私物や、家族の写真信仰する象などを居室に置き、やすらぎの場所を心がけている。	利用者の起き上がりや体動に配慮し、危険のない居室づくりを心掛けている。また、居室の掃除や換気に努め、利用者が落ち着いて過ごせる環境づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手摺りの設置や段差の解消を行っている。又、トイレの場所が分かり易いように貼り紙や居室に花の絵つきの名札を付けたり、必要箇所にセンサーを使用し、安全や自立支援に配慮している。		